

養殖研究部の研究概要（令和4年度実績）

1 クマモト・オイスターの生産に関する研究

(1) クマモト・オイスター安定生産技術開発試験

クマモト・オイスターを安定的に供給し本県の水産物ブランドとして確立するため、安定生産技術の開発に向けた試験研究を行っています。

ア 生産技術開発

(ア) へい死原因の一つである性成熟をコントロールし、高成長させる中間育成技術の開発

(イ) 養殖現場において求められる越夏技術の開発

イ 優良系統親貝の選抜育種及び系統保存

(ア) 養殖現場で生産された貝から優良系統親貝を選抜育種して系統保存するとともに、それをを用いた種苗生産及び中間育成

(イ) 量産用親貝の系統維持及び種苗生産機関への提供

(2) 「クマモト・オイスター」生産・ブランド化推進事業

クマモト・オイスターを本県の代表的なブランドとして確立させ、漁家経営の安定につなげるため、生産者組織の育成と販売力の強化に取り組んでいます。

ア 越夏養殖を考慮した大型種苗の生産体制構築

越夏養殖技術※を活用した種苗生産体制の構築及び現場の養殖規模に応じた大型種苗の供給

※ 越夏養殖技術：通常ならば多くの個体がへい死する夏場を越させ、複数年度の養殖を可能とする技術

イ 新たな越夏養殖技術を導入した養殖生産体制の実証

(ア) これまでどおり短期養殖を行いつつ、温湯処理等による越夏養殖技術の導入推進

(イ) 温湯処理技術の省力化及び効率化等、作業改善のための方法実証



クマモト・オイスター

2 ブリの種苗生産に関する研究

(1) ブリ人工種苗量産技術開発試験

県内ブリ養殖業の持続可能な発展のため、ブリ人工種苗の量産技術を確立して県内種苗生産業者等へ技術移転することにより、県内における種苗安定供給体制の構築に取り組んでいます。

ア 人工種苗量産技術開発

人工種苗量産技術の確立

イ 人工種苗の養殖実証試験



ブリ人工種苗

生産した種苗の県内養殖業者への配付及び養殖魚としての健苗性の確認

(2) ブリ親魚養成・採卵技術開発試験

県内養殖業者へのブリ人工種苗の安定供給体制構築のため、国が開発した技術を活用し、ブリ親魚養成及び採卵の技術確立に取り組んでいます。具体的には、生産した人工種苗を用いて養殖試験を行い、その中から大型個体を選別して採卵用の親魚としました。

3 その他養殖業の生産安定に関する研究

養殖経営を不安定化させる魚病等に対する効果的な対策や防疫について指導するとともに、養殖生産を安定させる養殖技術や新魚種等を開発しています。

(1) 重要疾病対策

ア クルマエビ養殖に甚大な被害をもたらすクルマエビ急性ウイルス血症を検出する技術の高度化

イ クルマエビの防疫体制を維持し、ウイルス病による被害の最小限化



クルマエビ急性ウイルス血症
のクルマエビ

(2) 新魚種及び養殖技術の開発

熊本県産マガキ（シングルシード）の人工種苗生産及び養殖の技術開発

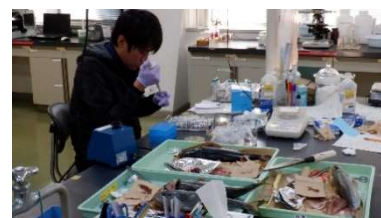
4 魚介類養殖の生産指導等

養殖魚介類の魚病診断及び水産用医薬品の適正使用指導を行い、疾病等による養殖被害の軽減を図るとともに、養殖水産物の海外輸出に必要な証明書の発行等を行っています。

(1) 魚病診断やクルマエビ急性ウイルス血症検査等の実施

(2) 水産用医薬品の適正な使用の指導

(3) 輸出養殖業者が必要とする証明書の発行



魚病診断